

広島県におけるクロハゲワシの初記録

茶村 真一郎

日本野鳥の会広島県支部

First Record of Cinereous Vulture *Aegypius monachus* in Hiroshima Prefecture.

Sinitiro CHAMURA

報告

クロハゲワシ *Aegypius monachus* はヨーロッパ南部、トルコ、イラン、アフガニスタン、中国南部、モンゴルなどで繁殖し、インド、中国、朝鮮半島などで越冬し、国内には迷鳥として渡来する（笹川 1996）。北海道、本州、佐渡、四国、九州、対馬、先島諸島などに渡来し（日本鳥学会 2012）、中国地方では 2004 年に鳥取県で、2018 年に島根で記録がある（日本野鳥の会鳥取県支部 2014、北脇 2018、秦 2018）。

クロハゲワシは、2021 年 5 月 28 日に、広島県北西部に位置する山県郡北広島町西八幡原（34°41'22"N, 132°10'12"E, 標高 788m）で確認された。クロハゲワシは、広島県ではこれまで確認記録がなく、本報告が県内における初記録となる。

クロハゲワシを確認したのは、休耕田の水田脇の上空である（図版 1-A）。2021 年 5 月 28 日、9:10 に上空をハチクマ *Pernis ptilorhynchus* に攻撃されながら旋回飛行するクロハゲワシを確認し、写真撮影した（図版 1-B）。その後、9:15 まで飛行し、東に向かって消失した。全身黒褐色で、ハチクマに比べてはるかに大型であること、翼が幅のある長方形で、尾が短めの円尾であることからクロハゲワシと同定した（大西・五百澤 2014）。

今回観察されたクロハゲワシは、迷鳥として渡来したと考えられる。クロハゲワシは 2000 年代には 15,600 ~ 21,000 羽と推定され、個体数の減少が懸念され、国際自然保護連合により、近危急種（NT）に選定されている（BirdLife International 2021）。

現在、八幡高原周辺には風力発電施設があり、また、複数の計画が立案されている。北側の弥畝山から掛山にかけての尾根上に風力発電機 29 機が既に稼働している。既設の 29 機のすぐ南側の鷹ノ巣山から大佐山にかけての尾根上にも 17 機の風力発電機の建設が計画されている。さらに、西側の益田市匹見町道川の北側尾根上にも 15 機の風力発電機の建設が計画されている。これらの風力発電機の設置数の増加に伴って、渡り鳥が風車に衝突死するバードストライクの増加も懸念されている。今後、開発や環境の変化が、クロハゲワシなどの希少な渡り鳥に与える影響について、継続調査が必要である。

謝辞

クロハゲワシの同定へのご意見をいただいた日本野鳥の会広島県支部の西本悟郎氏に心からお礼を申し上げる。

引用文献

BirdLife International (2021) Species factsheet: *Aegypius monachus*. Downloaded from <http://www.birdlife.org> on 08/06/2021

秦 智秋 (2018) クロハゲワシ騒動. 日本野鳥の会島根県支部報, 184 : 4
北脇 努 (2018) クロハゲワシ (幼鳥) 放鳥時の記録. 日本野鳥の会島根県支部報, 184 : 13
国際自然保護連合 (IUCN) <https://www.iucnredlist.org/ja/about/background-history>
日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録 改定第 7 版. 日本鳥学会, 三田
日本野鳥の会鳥取県支部 (2014) 鳥取県鳥類目録. 日本野鳥の会鳥取県支部, 米子
大西 敏一・五百澤 日丸 (2014) 日本の野鳥 650. 平凡社, 東京
笹川 昭雄 (1996) クロハゲワシ. (日高 敏隆 編) 日本動物大百科 3 鳥類 I, 166. 平凡社, 東京

図版 1



A : クロハゲワシの確認地点 2021 年 5 月 30 日
B : ハチクマに攻撃されるクロハゲワシ成鳥 2021 年 5 月 28 日